

# 多核種除去設備(ALPS)による処理水を タンクに貯留し続けた場合に 廃炉作業に与える影響について

2016年 7月19日  
東京電力ホールディングス株式会社

**TEPCO**

# ALPS処理水をタンクに貯留し続けた場合に廃炉作業に与える影響

ALPS処理水の貯留継続に伴い生じる課題		廃炉作業に与える影響	影響の分類
タンクに貯留し続けることの課題	個別要因	タンク・移送配管の経年劣化等により、漏えいするリスクが増加する。	漏えいリスク増加
	共通要因	敷地が限られているため、今後新たな設備の配置計画に影響を与える可能性がある。	廃炉作業の長期化
タンク、移送配管の設置・運用・保守等にリソース(人的・費用的リソース)が取られ、他の廃炉作業のリソースが不足する。		廃炉作業の長期化	
作業員の被ばく線量が増加する。		作業員の被ばく線量増加	
タンクを継続して増設していくことの課題	個別要因	タンク・移送配管を増設することにより、漏えいするリスクが増加する。	漏えいリスク増加
		タンク・移送配管を増設することにより、発生する放射性廃棄物が増加する。	放射性廃棄物の増加
		溶接タンク増設にあわせたALPS処理量となるため、地下水流入抑制効果の発現が遅れた場合、タンク貯留水や建屋滞留水等のALPS処理が長期化する。	廃炉作業の長期化